

2004.04.05 IODP 部会事務局

日時：平成16年4月4日（日） 10:00～12:00

場所：東京大学海洋研究所

出席者：執行部 徳山・荒井・伊藤・井龍・加藤・木村・佐柳・徐・巽

部会長補佐 齋藤 JAMSTEC/CDEX 倉本 事務局 山川・西川

【会員総会について】

- ・ 総会議事次第と配布資料を確認した。

【報告事項】

- ・ 徐・巽執行部員より、3月に開催された SPC 及び関連会議の報告があった。
- ・ 齋藤部会長補佐より、情報システムワーキンググループ設置検討会（3月4日）の報告があった。
- ・ SPPOC の各 ad-hoc committee について現状が報告された。SAS ad-hoc committee 対応では、パネル委員へのアンケートを実施中である。Conflict of Interest Issue ad-hoc committee は、事前打合せを4月12日に開催する。SOC/POC ad-hoc com.については、木村 SPPOC 委員と IO とで対応検討する。
- ・ 木村執行部員より、IODP-MI の現状が報告された。FY04 の契約作業は順調に進んでいる。また、欧州の IODP 加盟に伴い、欧州内の11の機関が IODP-MI に加入した。日本では、九州大の加入が正式に認められたほか、1機関が加入準備中である。なお、産総研に代わり、高知大の尾崎副学長が BoG メンバーとなったことが報告された。

【乗船研究者の選出について】

- ・ Juan de Fuca 航海の乗船研究者決定済み。
- ・ North Atlantic I は、国内でのランキング終了。IO へ送付予定。
- ・ Ocean Core Complex I は、国内ランキングの作業を地球内部専門部会中心に開始する。
- ・ North Atlantic II については、コアリング主体の航海であることの周知を徹底する。

【予算要求への対応について】

- ・ 巽執行部員より、IODP 科学支援体制に関する提言（案）をもとに作成した、『IODP におけるわが国の科学戦略（2）』（仮称）について、ドラフト版が配布され、説明があった。内容確認の上、意見等があれば4月9日までに巽執行部員へ伝える。
- ・ 平成17年度予算要求等に関連し、巽執行部員が、4月6日に文部科学省を訪問する。

【国際パネルへの対応について】

- ・ TAP 委員の人選を速やかに済ませることが確認された。執行部会は、既に内諾を受けて

いる7名の候補者を了承した。今後コンソーシアムから正式に依頼し、事務局への英文CVの送付をお願いする。欠席時のAlternate候補者については、引き続き検討。

- ・ 委員任期を考慮に入れたローテーション計画を作成する。斎藤部会長補佐、SPPOC委員、SPC委員で原案を作成する。
- ・ SciMPについては、co-chairの移行が進んでいることが報告された。今後、岡田新co-chairの活動支援が必要である。
- ・ ILPについては、検討中のSAS構造を考慮に入れつつ、国内での対応を検討する。関連して、産業界・IOとの連絡懇談会の開催について引き続き検討する（伊藤執行部員・徳山部会長）。

【執行部員の増員について】

- ・ 徳山部会長より、海洋研究開発機構IFREEの木戸ゆかり氏を執行部員に指名することが提案され、了承された。木戸執行部員には、斎藤部会長補佐の補助と広報関連業務を主に担当してもらう。

【IODP 広報・国際対応について】

- ・ 徐執行部員より、3月30日の国際ワークショップ「A new Science Creating by IODP in Asian Waters」の開催について報告があった。国内外から74名の出席があり、13の講演が行われ、盛会のうちに終了した。このワークショップの成果を『IODPにおけるわが国の科学戦略(3)』（仮称）に取りまとめてゆく方針が示された。
- ・ 徐執行部員より、4月1～2日に長崎で開催された「IODP Business Meeting」の報告があった。日本の乗船研究者枠をアジアの研究者にも利用可能なよう、必要な対応をとってゆく。各航海においては、2名程度を日本人乗船研究者のリストに加えて推薦できるような配慮を検討する。
- ・ アジア諸国とは、今後もシンポジウム開催、マスコミ対応において協力を進めてゆく。
- ・ IODP 部会事務局より、「IODP 大学&科学館キャンペーン」の準備状況が報告された。本キャンペーンの対応のため、新潟大藤林助教授、東大海洋研沖野助教授に協力を要請する。九州大学・北九州市立自然史・歴史博物館には、藤林助教授が参加する。
- ・ 5月に開催される地球惑星関連合同大会への対応が検討された。5月10日(月)夕方開催する「J-DESC タウンミーティング」については、斎藤部会長補佐・木戸執行部員でプログラム案を作成する。ブース展示については、JAMSTECと協同出展のため、今後協議の上、対応してゆく（陸上掘削部会との連携も検討）。
- ・ ACEX 航海のアウトリーチに関し、ESO 要請のあった広報素材の提供については、CDEX（長谷部氏）が窓口で対応いただく。今後、同様の素材提供の対応は、CDEXを窓口とすることが確認された。なお、コンソーシアムとして対応が必要となった場合には、木戸執行部員が対応する。
- ・ CDEX 倉本氏より、「科学者と掘削技術者の相互理解と将来」ワークショップの開催依頼があり、内容について説明があった。これについて、CDEX/J-DESC 共催として対応することとなった。なお、J-DESCでは、技術開発推進専門部会・科学計測専門部会から担当者を出し、対応する。
- ・ 7月開催のAOGSについては、ブース出展、タウンミーティングの開催を検討する。

- ・ 日本学術振興会国際研究集会開催費の募集について、コンソーシアム会員に周知し、広く応募を呼びかける。

【その他】

- ・ 事前調査専門部会長の後任の人選を進める。その他の部会長・委員は留任とする。
- ・ 「IODP における我が国の科学戦略－掘削提案の実現に向けて（1）－」の英語版は、原稿の取りまとめ作業がほぼ終了している。今後、体裁等を整え、発行する。
- ・ 徳山部会長より、IODP 部会専門部会長・SSEP co-chair の負担軽減に関する申し入れが、部会長宛にあったことが紹介された。この問題については、IODP 部会執行部会も従前より認識しているところであり、今後も引き続き所要の対応を進めてゆく。

以上